

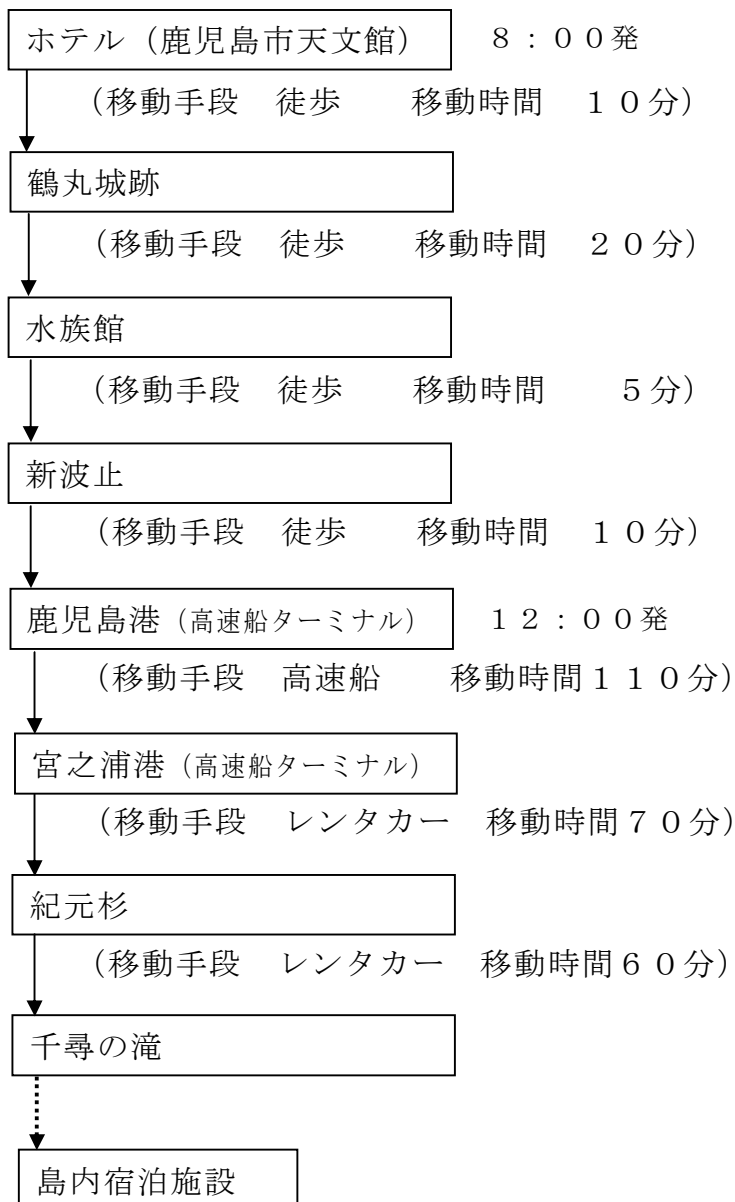
かごしま検定 グランドマスター模範解答例

- 問 1. トカラ海峡は種子島・屋久島と奄美大島の間にあり、水深が1000メートル近くにも達するため、東シナ海の大陸棚に沿って北上する黒潮の本流が、太平洋へ流出する通路の役目を果たしている。このトカラ海峡付近の悪石島と小宝島の間にかれる渡瀬ラインは大きく動物地理を分け、熱帯系と温帯系の境界となっている。この渡瀬ラインを挟んで南の島々には、北の島々や九州本土に棲息しないアマミノクロウサギ、ハブ、イシカワガエルなどの動物が棲息している。(213字)
- 問 2. 維新後、西郷隆盛は、開国を拒否する李氏朝鮮に使節を派遣し、開国させようと主張する征韓論を唱え、大久保利通などと激しく対立した。征韓論に敗れた西郷は、鹿児島に戻り、青年たちの教育機関として私学校を創設。1877年、士族の反乱が各地で起こったあと、西郷は私学校生徒を引き連れ、熊本城を拠点とする政府軍と衝突。ここに国内最後の内戦・西南戦争が始まった。田原坂の戦いで形勢不利に陥った薩軍は退却を余儀なくされ、城山にて西郷が自刃するに至った。これにより西南戦争は終結した。(232字)
- 問 3. 浜田苔花は鹿児島の新聞記者の女性第1号。岡山市の出身で国分市(現・霧島市)出身の浜田仁左衛門と結婚後の1906年、鹿児島新聞に入社した。インタビュー記事や連載小説「五厘銅貨物語」を執筆、世相を批評した。丹下梅子は鹿児島市生まれで帝国大学生女性第1号。1912年、それまで男子限定だった帝大に門戸を開かせるきっかけとなる検定試験に合格。東北帝大に学び米国へ留学。ビタミンB2複合体の研究で博士号を取った。(201字)
- 問 4. 鹿児島県は1960年代以降新婚旅行の目的地として宿泊客数が増加していたが、1970年代前半の「離島ブーム」により、約800万人まで達した。その後本土復帰した沖縄県や海外との競合により宿泊客数は減少したものの、1990年の「翔ぶが如く」ブームで、同年の宿泊観客数は900万人を超えて過去最高を記録した。同ブーム後は、1993年に屋久島が「世界自然遺産」に登録されたことで一時的に観光客数が増加したものの、再び減少傾向にあった。(210文字)

問 5

行程

訪問先



※最終訪問地から宿泊施設までの移動手段・移動時間は問わない。

■ 昼食場所

ドルフィンポート

■ メニュー

鶏飯

■ 屋久島土産品

屋久杉製箸

焼酎「三岳」

コースの特徴・提案理由

本提案では、鹿児島市における江戸時代から幕末維新期の歴史などに触れる。また、屋久島では世界遺産の島で育まれた雄大な自然を堪能いただく。午前中、西南戦争の弾痕が残る鶴丸城跡などの歴史遺産や、錦江湾の様々な生物の生態について学べる水族館を視察後、ドルフィンポート・新穂花で鶏飯の昼食。屋久島に移動後は、巨大な一枚岩から流れ落ちる壮大な千尋の滝、推定樹齢3,000年と言われる紀元杉を観光。土産は、屋久島の焼酎「三岳」や屋久杉製品を購入。（216字）